

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5437702号
(P5437702)

(45) 発行日 平成26年3月12日 (2014. 3. 12)

(24) 登録日 平成25年12月20日 (2013. 12. 20)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 51/20 (2006. 01)

B 6 5 D 51/20

B 6 5 D 77/28 (2006. 01)

B 6 5 D 77/28

請求項の数 5 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2009-135629 (P2009-135629)
 (22) 出願日 平成21年6月5日 (2009. 6. 5)
 (65) 公開番号 特開2010-280419 (P2010-280419A)
 (43) 公開日 平成22年12月16日 (2010. 12. 16)
 審査請求日 平成24年5月15日 (2012. 5. 15)

(73) 特許権者 000177209
 日本ストロー株式会社
 東京都品川区大崎5-1-11
 (73) 特許権者 000006127
 森永乳業株式会社
 東京都港区芝5丁目33番1号
 (74) 代理人 100080768
 弁理士 村田 実
 (74) 代理人 100075188
 弁理士 菊池 武胤
 (72) 発明者 藤野 哲秀
 東京都目黒区東山1-4-4 日本スト
 ロー株式会社 内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 逆伸縮ストローの差し込み口を有する被せ蓋及び被せ蓋が被せられた飲食品包装体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被せ蓋であって、その上面に舌片状からなる逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットを形成し、上記舌片状スリットの先端側に上記舌片状スリットと繋がっている外向きに伸びる外向きスリットを設けてあり、上記舌片状スリットにより形成された舌片の先端側に上記舌片状スリットと繋がっている内向きに伸びる内向きスリットを設けてあることを特徴とする差し込み口を有する被せ蓋。

【請求項 2】

上記舌片状スリットが一部が繋がっていない円形状又はU字状である上記請求項 1 に記載の被せ蓋。

【請求項 3】

上記外向きに伸びる外向きスリットが1本又は2本の直線状のスリットである上記請求項 1 又は 2 に記載の被せ蓋。

【請求項 4】

上記外向きに伸びる外向きスリットの長さが2～4mmである上記請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の被せ蓋。

【請求項 5】

飲食品が充填密封された容器に、上記請求項 1 乃至 4 の何れかに記載の被せ蓋が被せられた飲食品包装体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、二重伸縮ストローであって、太い外側ストローの先端に斜め切り形成した差し込み先端を有し、細い内側ストローに基端飲み口を有する逆伸縮ストローが使用される飲料用容器の被せ蓋であって、上記逆伸縮ストローの差し込み口を有する被せ蓋に関する。

また、本発明は、当該被せ蓋を利用した飲食品包装体に関する。

【背景技術】

【0002】

上記逆伸縮ストローは公知である（例えば特許文献1）。

上記逆伸縮ストローは、近時、飲料用容器の内容物によって、飲用し易いという理由で使用され実用化されている。

この飲料用容器は、一般的に紙製容器又はプラスチック製容器に内容液が充填され、容器の開口をアルミニウム箔により密閉し、その上に被せ蓋が被せられ、この被せ蓋にストロー差し込み口が形成されている。このストロー差し込み口に上記逆伸縮ストローを差し込み、アルミニウム箔を突き抜いて、飲料用容器の内容物を飲用するようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開昭62-192123号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記被せ蓋に形成されたストロー差し込み口の形状は、円形状であってその一部に切り込みが形成されてない繋ぎ部があるものか、U字状をしたものである。

そのために逆伸縮ストローを差し込み口に突き刺して、容器内飲料を飲み干した後、逆伸縮ストローを抜き出そうとして、上向き矢印の方向に途中まで抜き出した状態は、図10に示すようにストロー差し込み口を形成する舌片が容器内に折れ曲がり、その先端が太い外ストローと細い内ストローとの境界部分に係止する状況となる。

その結果、容器内飲料を飲み終えた後、逆伸縮ストローを被せ蓋と分別廃棄するため、容器から抜き取ろうとすると上記係止部によってストローに係止し、抜き出せないという課題がある。また、強引に逆伸縮ストローを抜き取ろうとすると、抜き出た際に逆伸縮ストローに付着した飲料が飛び散り、衣服を汚してしまうという課題もある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記課題を解決するために、本発明は、被せ蓋の差し込み口に挿入された逆伸縮ストローを該差し込み口から容易に抜き出すことができる新規な被せ蓋を提供するものである。

そのために、本発明の逆伸縮ストローの差し込み口を有する被せ蓋は、その上面に舌片状からなる逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットを形成し、上記舌片状スリットの先端側に上記舌片状スリットと繋がっている外向きに伸びる外向きスリットを設けてあり、上記舌片状スリットにより形成された舌片の先端側に上記舌片状スリットと繋がっている内向きに伸びる内向きスリットを設けてあることを特徴とする。

【0006】

上記舌片状スリットが一部が繋がってない円形状又はU字状である。

上記外向きに伸びる外向きスリットが1本又は2本の直線状スリットである。

上記外向きに伸びる外向きスリットの長さが2～4mmである。

【発明の効果】

【0007】

本発明の逆伸縮ストローの差し込み口を有する被せ蓋は、その上面に舌片状からなる逆

10

20

30

40

50

伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットを形成し、上記舌片状スリットの先端側に上記舌片状スリットと繋がっている外向きに伸びる外向きスリットを設けてあり、上記舌片状スリットにより形成された舌片の先端側に上記舌片状スリットと繋がっている内向きに伸びる内向きスリットを設けてあることを特徴とするから、逆伸縮ストローを被せ蓋のストロー差し込み口から引き抜く際、逆伸縮ストローの細い内ストローと太い外ストローとの境界部分の段差部に舌片状のストロー差し込み口を形成する舌片の先端が係止しても、この舌片によって逆伸縮ストローが舌片の先方横方向即ち上記外向きに伸びる外向きスリットの方に押し動かされ、上記外向きに伸びる外向きスリットを押し開いてストロー差し込み口を大きく開放し、逆伸縮ストローの抜き出しを容易にすることができる効果がある。

10

また、逆伸縮ストローを容易に抜き出せるため、抜き出した際に逆伸縮ストローに付着した飲料が飛び散ることがなく、衣服を汚してしまうというおそれも全くない。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】参考例1に係る被せ蓋の斜視図である。

【図2】参考例1に係る被せ蓋の平面図である。

【図3】参考例1の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

【図4】参考例2の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

20

【図5】参考例3の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

【図6】参考例4の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

【図7】本発明の実施例1の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

【図8】本発明の実施例2の逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリットの平面図である。

【図9】逆伸縮ストローの正面図である。

【図10】逆伸縮ストローを容器の蓋の差し込み口に差し込んで途中まで引き上げた状態の正面図である。

30

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下、本発明の実施の形態について、詳細に説明する。なお、図1～図6は参考例であり、図7、図8が本発明の実施例であり、まず参考例に説明した後、本発明の実施例について説明する。図1及び図2に逆伸縮ストローの差し込み口を有する被せ蓋を示してある。図中1がこの被せ蓋で、その上面2の適当な位置に、逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリット3を形成してある。この舌片状スリット3により形成される舌片4の基本部分は、スリットが繋がらない部分で、逆伸縮ストローが差し込まれた際に基本部分で折れ曲がり、舌片4が下向きに押し込まれる。この舌片状スリット3の先端側に舌片状スリット3と繋がっている外向きに伸びる外向きスリット5を形成してある。

40

【0010】

図9に逆伸縮ストローを示してあり、図10に逆伸縮ストローを被せ蓋1の上面2の差し込み口に差し込んだ状態を示してある。

逆伸縮ストローは太い外ストロー20と、細い内ストロー21とからなり、外ストロー20の先端に差し込み用の斜めに切除した尖鋭部22を設け、外ストロー20の基端に絞り込み部23を有する。内ストロー21の先端には、上記外ストロー20の絞り込み部23と緊密に密着する拡径部24を有し、基端を飲み口部25としてある。

【0011】

この逆伸縮ストローを引き伸ばして外ストロー20の絞り込み部23と内ストロー21

50

の拡径部 2 4 とを緊密に密着させ、被せ蓋 1 の上面 2 の差し込み口に突き刺して容器内飲料を飲み干し、この逆伸縮ストローを引き抜くため、図 10 の矢印方向に逆伸縮ストローを引き上げると、被せ蓋 1 の上面 2 に形成した舌片 4 が外ストロー 20 と内ストロー 21 の境界の段差部 26 に係止して抜け出せない。このような状況であっても逆伸縮ストローの引き抜きを容易にしたのが本発明の被せ蓋である。

【参考例 1】

【0012】

図 1 乃至図 3 に参考例 1 を示してある。この参考例 1 では、被せ蓋 1 の上面 2 に形成する差し込み口のための舌片状スリット 3 を、円形状にして円形状の舌片 4 を形成する。この円形状の舌片 4 の基本部分はスリットが繋がらない部分としてある。

10

この参考例 1 では、上記円形状の舌片状スリット 3 の先端側、即ちスリットが繋がっていない基本部分の反対側に、該舌片状スリット 3 と繋がっている外向きに伸びる 1 本の外向きスリット 5 を形成してある。この 1 本の外向きスリット 5 は直線状であって、その長さは 2 ~ 4 mm である。

【参考例 2】

【0013】

図 4 に参考例 2 を示してある。この参考例 2 では、参考例 1 と同様に被せ蓋 1 の上面 2 に形成する差し込み口のための舌片状スリット 3 を、円形状にして円形状の舌片 4 を形成する。この円形状の舌片 4 の基本部分はスリットが繋がらない部分としてある。

この参考例 2 では、上記舌片状スリット 3 の先端側、即ちスリットが繋がっていない基本部分の反対側に、該舌片状スリット 3 と繋がっている外向きに伸びる 2 本の外向きスリット 5 を形成してある。この 2 本の外向きスリット 5 は直線状であって、その長さは 2 ~ 4 mm である。

20

【参考例 3】

【0014】

図 5 に参考例 3 を示してある。この参考例 3 では、被せ蓋 1 の上面 2 に形成する差し込み口のための舌片状スリット 3 を、U 形状にして U 字状の舌片 4 を形成する。この U 字状の舌片 4 の基本部分はスリットが繋がらない部分としてある。

この参考例 3 では、上記 U 字状の舌片状スリット 3 の先端側、即ちスリットが繋がっていない基本部分の反対側に、U 字状の舌片状スリット 3 と繋がっている外向きに伸びる 1 本の外向きスリット 5 を形成してある。この 1 本の外向きスリット 5 は直線状であって、その長さは 2 ~ 4 mm である。

30

【参考例 4】

【0015】

図 6 に参考例 4 を示してある。この参考例 4 では、参考例 3 と同様に被せ蓋 1 の上面 2 に形成する差し込み口のための舌片状スリット 3 を、U 字状にして U 字状の舌片 4 を形成する。この U 字状の舌片 4 の基本部分はスリットが繋がらない部分としてある。

この参考例 4 では、上記 U 字状の舌片状スリット 3 の先端側、即ちスリットが繋がっていない基本部分の反対側に、該 U 字状の舌片状スリット 3 と繋がっている外向きに伸びる 2 本の外向きスリット 5 を形成してある。この 2 本の外向きスリット 5 は直線状であって、その長さは 2 ~ 4 mm である。

40

【実施例 1】

【0016】

図 7 に本発明の実施例 1 を示してある。この実施例 1 は、基本的に参考例 1 と同様で、この参考例 1 に、舌片 4 の先端に舌片状スリット 3 に繋がる内向きに伸びる内向きスリット 6 を形成してある。この内向きスリット 6 は直線状であって、その長さは 1 ~ 2 mm である。

【実施例 2】

【0017】

図 8 に本発明の実施例 2 を示してある。この実施例 2 は、基本的に参考例 3 と同様で、

50

この参考例 3 に、舌片 4 の先端に舌片状スリット 3 に繋がる内向きに伸びる内向きスリット 6 を形成してある。この内向きスリット 6 は直線状であって、その長さは 1 ～ 2 mm である。

【 0 0 1 8 】

上記それぞれの実施例では、被せ蓋 1 の上面 2 に舌片状からなる逆伸縮ストローの差し込み口を形成する舌片状スリット 3 を形成し、この舌片状スリット 3 の先端側にこの舌片状スリット 3 と繋がる外向きに伸びる外向きスリット 5 を形成し、さらに舌片状スリット 3 により形成された舌片 4 の先端側に上記舌片状スリット 3 と繋がっている内向きに伸びる内向きスリット 6 を形成してあるから、図 1 0 に示すように逆伸縮ストローを被せ蓋 1 のストロー差し込み口から引き抜く際、逆伸縮ストローの細い内ストロー 2 1 と太い外ストロー 2 0 との境界部分の段差部 2 6 に舌片状のストロー差し込み口を形成する舌片 4 の先端に係止しても、この舌片 4 によって逆伸縮ストローが舌片 4 の先方横方向即ち外向きに伸びる外向きスリット 5 の方向である図 1 0 の右方向に動かされ、上記外向きに伸びる外向きスリット 5 を押し開いてストロー差し込み口を大きく開放し、逆伸縮ストローの抜き出しを容易にするのである。

10

【 符号の説明 】

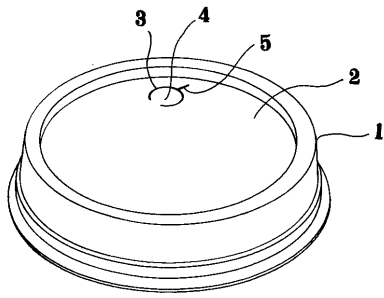
【 0 0 1 9 】

- 1 被せ蓋
- 2 上面
- 3 舌片状スリット
- 4 舌片
- 5 外向きスリット
- 6 内向きスリット
- 2 0 外ストロー
- 2 1 内ストロー
- 2 2 尖鋭部
- 2 3 絞り込み部
- 2 4 拡張部
- 2 5 飲み口部
- 2 6 段差部

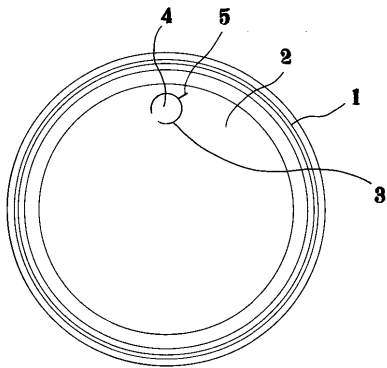
20

30

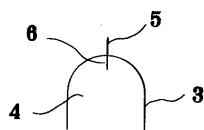
【図 1】



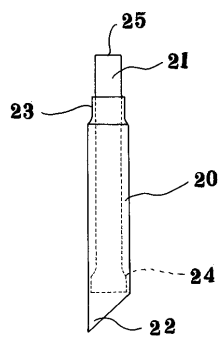
【図 2】



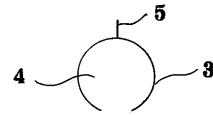
【図 8】



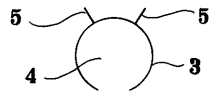
【図 9】



【図 3】



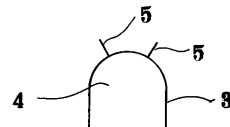
【図 4】



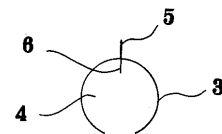
【図 5】



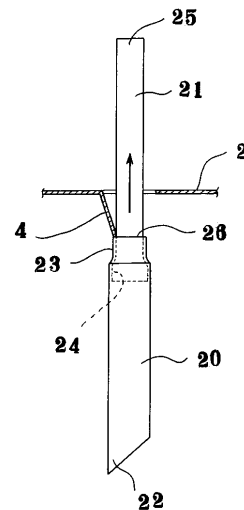
【図 6】



【図 7】



【図 10】



フロントページの続き

- (72)発明者 牧野 収孝
神奈川県座間市東原 5 - 1 - 8 3 森永乳業株式会社食品総合研究所 内
- (72)発明者 秋山 正行
神奈川県座間市東原 5 - 1 - 8 3 森永乳業株式会社食品総合研究所 内
- (72)発明者 市来 敏和
神奈川県座間市東原 5 - 1 - 8 3 森永乳業株式会社食品総合研究所 内
- (72)発明者 大津 圭吾
神奈川県座間市東原 5 - 1 - 8 3 森永乳業株式会社食品総合研究所 内

審査官 八木 誠

- (56)参考文献 特開 2 0 0 2 - 2 8 4 2 0 6 (J P , A)
特開 2 0 0 7 - 1 6 8 7 9 3 (J P , A)
特開 2 0 0 4 - 0 9 8 3 9 6 (J P , A)
特開平 0 6 - 3 4 5 1 3 7 (J P , A)
特開 2 0 0 5 - 2 7 1 9 9 9 (J P , A)
特開 2 0 1 0 - 1 3 7 9 0 2 (J P , A)
特開平 0 7 - 0 6 1 4 6 9 (J P , A)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B 6 5 D 5 1 / 2 0、7 7 / 2 8、5 1 / 2 4